

箕輪町内における生活支援サービス等に関する調査結果報告

(居宅介護支援事業所 Ver)

令和8年7月22日

箕輪町社会福祉協議会

地域ふれあいグループ

■実施期間

令和8年7月13日(月)～令和8年7月22日(水)

■調査対象

居宅介護支援事業所

■回答者数

13名

■回答結果

1 回答者情報

担当している利用者人数	0～10 人	1
	11 人～20 人	0
	21 人～30 人	1
	31 人～40 人	5
	41 人以上	6
現在の職種の経験人数	1年未満	0
	1～3年	1
	4～5年	1
	6年以上	11

2-1 生活支援サービスの実態について(困り度)

	不足していない	少し不足している	やや不足	不足している	非常に不足
①ゴミ出し支援について	6	1	4	2	0
②買い物代行支援	6	2	3	2	0
③見守り・声掛け支援	3	3	4	2	1
④移動支援(足の確保・同行支援除く)	1	6	0	3	3
⑤病院の付き添い支援	5	3	1	2	2
⑥買い物の付き添い支援	4	5	1	3	0
⑦配食サービス	6	4	3	0	0
⑧庭の整備(草刈り、庭木の手入れなど)	4	2	2	5	0
⑨家の中の支援(そうじ)	4	5	3	1	0
⑩家の中の支援(電球交換、灯油入れなど)	6	3	1	3	0
⑪居場所(ふれあいサロン等社会的孤立防止)	6	3	1	3	0
⑫入退院の手続き	3	4	3	0	3
⑬行政等から届く書類等の確認・整理	1	3	2	6	1

7

6

5

4

3

2

1

0

①ゴミ出し支援について ②買い物代行支援 ③見守り・声掛け支援 ④移動支援(足の確保・同行支援除く) ⑤病院の付き添い支援 ⑥買い物の付き添い支援 ⑦配食サービス ⑧庭の整備(草刈り、庭木の手入れなど) ⑨家の中の支援(そうじ) ⑩家の中の支援(電球交換、灯油入れなど) ⑪居場所(ふれあいサロン等社会的孤立防止) ⑫入退院の手続き ⑬行政等から届く書類等の確認・整理

■不足していない

6

6

3

1

5

4

6

4

4

6

6

3

1

■少し不足している

1

2

3

6

3

5

4

2

5

3

3

4

3

■やや不足

4

3

4

0

1

1

3

2

3

1

1

3

2

■不足している

2

2

2

3

2

3

0

5

1

3

3

0

6

■非常に不足

0

0

1

3

2

0

0

0

0

0

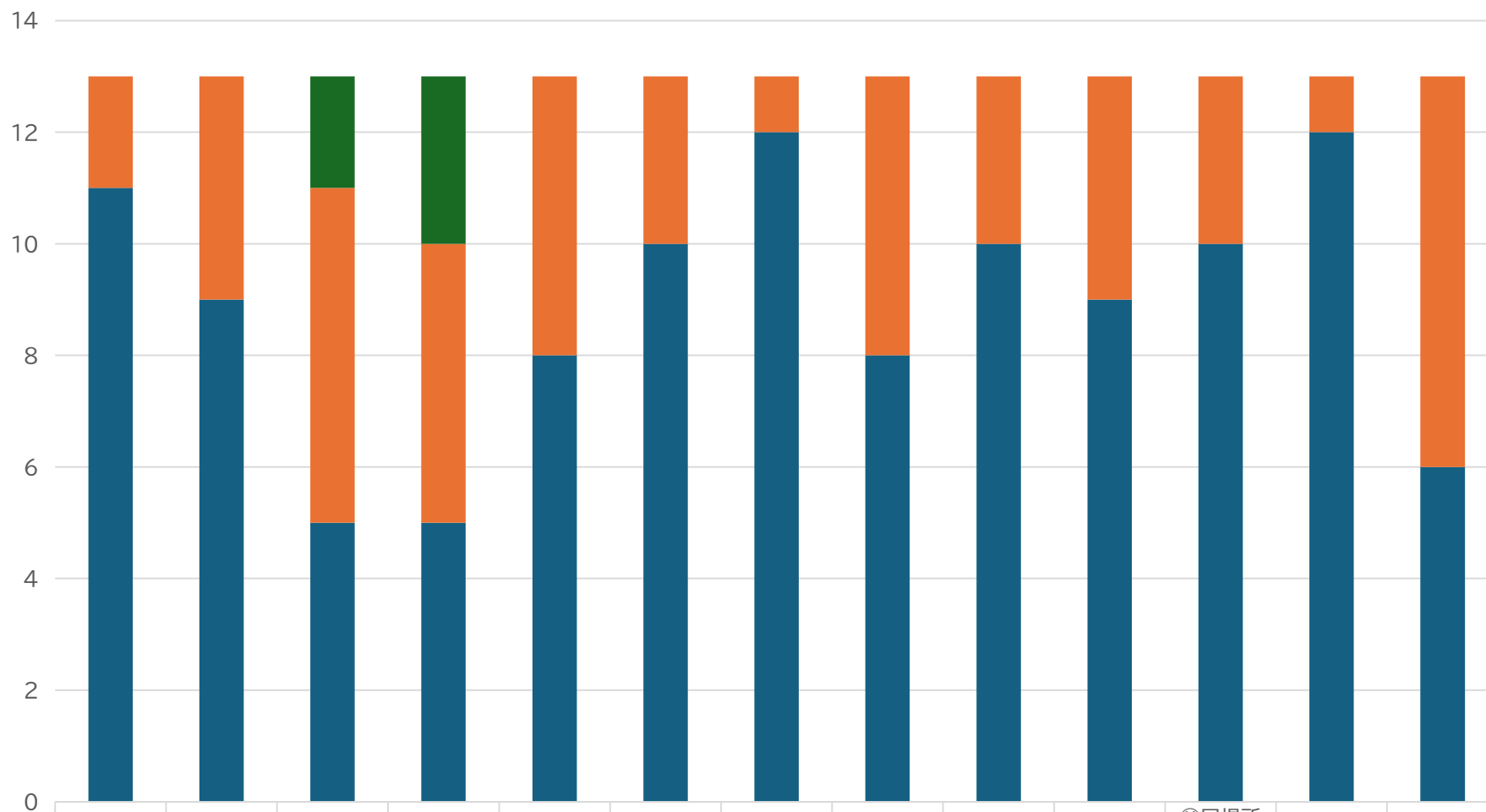
0

3

1

2ー2 生活支援サービスの実態について(困り度)

	0～1回 (1か月に直面する頻度)	2～5回 (1か月に直面する頻度)	6回以上 (1か月に直面する頻度)
①ゴミ出し支援について	11	2	0
②買い物代行支援	9	4	0
③見守り・声掛け支援	5	6	2
④移動支援(足の確保・同行支援除く)	5	5	3
⑤病院の付き添い支援	8	5	0
⑥買い物の付き添い支援	10	3	0
⑦配食サービス	12	1	0
⑧庭の整備(草刈り、庭木の手入れなど)	8	5	0
⑨家の中の支援(そうじ)	10	3	0
⑩家の中の支援(電球交換、灯油入れなど)	9	4	0
⑪居場所(ふれあいサロン等社会的孤立防止)	10	3	0
⑫入退院の手続き	12	1	0
⑬行政等から届く書類等の確認・整理	6	7	0



■	6回以上 (1か月に直面する頻度)
■	2~5回 (1か月に直面する頻度)
■	0~1回 (1か月に直面する頻度)

①ゴミ出し支援について	②買い物代行支援	③見守り・声掛け支援	④移動支援(足の確保・同行支援除く)	⑤病院の付き添い支援	⑥買い物の付き添い支援	⑦配食サービス	⑧庭の整備(草刈り、庭木の手入れなど)	⑨家の中の支援(そうじ)	⑩家の中の支援(電球交換、灯油入れなど)	⑪居場所(ふれあいサロン等社会的孤立防止)	⑫入退院の手続き	⑬行政等から届く書類等の確認・整理
0	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	4	6	5	5	3	1	5	3	4	3	1	7
11	9	5	5	8	10	12	8	10	9	10	12	6

2-3 生活支援サービスの実態について(記述回答)

▶困り度が高くなった具体的な背景・事例などがあれば教えてください。

市町村をまたぐ移動の手段が乏しいことで、買い物・通院・余暇活動等に支障が生じることが多い。「中病には通えないから、詳しい検査や治療はしなくていい」と選択肢を狭めてしまうことが度々ある。

独居、高齢世帯での体調悪化による急を要する受診時の付き添い、他の利用者の対応と重なった場合

身寄りがない。頼れる人がいない。お金が無い。サービスを紹介しても本人にこだわり、意向があり介入に至らない。(ふれあいの里、らいふサポート職員が1結になったため、通院、買い物同行が困っている)

身よりのない方の、緊急時の対応を誰がするのかを現在進行形で相談平日昼間なら付き添えても夜間に救急搬送された場合、誰が付き添い誰が入院の手続きを？登録しておけば対応してくれるそんなサービスがあるといいな…

家族がいない、いても遠方で日常的な支援は困難。

最近身よりのない方のケースが増えており、ケアマネだけでは抱えきれない事案が多くなっています。ケアマネ不足も深刻になりつつあるなか、これ以上ケアマネの負担が大きくなるとケアマネをやろうと思う人もいなくなります深刻な状況になっていくと思います。行政や社協など公的な機関で身よりのない方の支援を真剣に考えていただきたいと思っています。

役場からの種類が提出書類(切手を貼って出す)を含めて高齢者には困難なものが多い。

入退院時の KP がいない、若しくは KP も高齢の際、支援が必要な人が少し増えてきている様に感じている。

3 シャドーワークに関すること(記述回答)

▶これまで経験されたシャドーワーク事例で代表的なものを教えてください。

入院付き添い、葬儀社とのやりとり、受診同行、郵便物の投函、病院からの書類受け取り代行、掃除支援(ゴミ屋敷)

独居、高齢世帯、障がい者家族の場合で急な体調変化で受診の必要あるが家族の対応出来ず、ケアマネジャーが何時間も付き添い対応、その後入院となり入院準備まで行った。

ゴミ出し、入院準備、退院付き添い、安否確認、書類整理

郵便物の投函

自宅(アパート)の片付け、ペットの餌槍、トイレ片付け、片付け費用の複数見積り、入退院時の手続き、荷物を届ける、受診の付き添い、葬儀会社との金額交渉、紹介、緊急時対応(夜間の呼び出し、救急車同行など)

・介護保険外の役場への手続き・電気会社の変更手続きを一緒に確認・壊れた鍵の修理依頼…等々

急な体調不良時の受診の付き添いや入院の立会い。公共料金の支払い。郵便物の整理。

家に食べるものがなく米や惣菜を買ってきてご飯を炊いた。遠方の家族の代わりに受診に付き添った。

固定電話が使えなくなって困っていると連絡を受けて訪問した。故障しており新しいものを購入するため電気屋に行って写真を撮って本人と相談しながら決めて購入をした。半日かかった(歩行困難、一人暮らし)

キーパーソンのレスパイトの為に入院した際、病院へ必要な物を都度届けた。

書類提出代行

体調不良、救急車搬送の付き添い(緊急時の対応)。書類記入(家族が遠方の方で独居。障がいのある家族など)

【記述回答】シャドーワーク事例解決のため必要と思われる仕組みなどアイデアがありましたら教えてください。

死後の手続きを担う専門職が生前から関わり、多職種で連携して本人の意向を汲んだ死後対応・医療の対応ができれば。

家族不在(居ても県外など)の場合で高齢者世帯、独居、障がい者家族の場合、医療時の付き添い無しでも緊急時家族への連絡、入院手続きが出来る仕組みで介護保険申請してほしい。

身寄りのない方を支える生活支援サービス体制づくり

地域に気軽に頼める関係作りの支援。

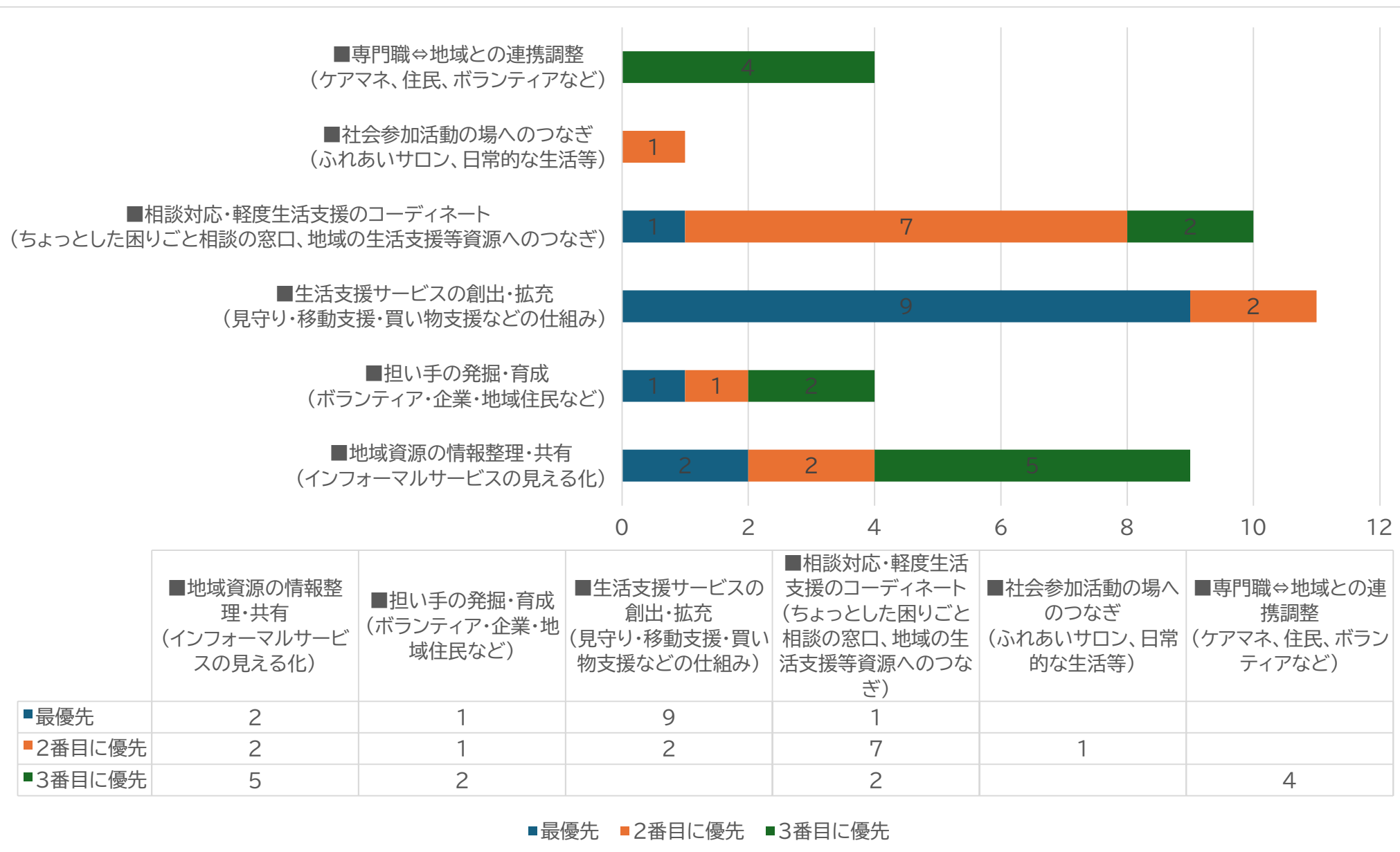
地域の見守りで安否確認できる体制があると良い。ちょっとした困りごと、電球の取り替えや布団を押し入れに入れるとか、対応できる体制がほしい。あっても予約が必要だったり頼みにくさがある。

生協病院のレインボーの様な、おつかいもしてもらえるサービスがあると良いか。

独居の方に対しては、身元引受人等の別に住んでいる家族への送付が可能になれば良いと思われます。

4. 地域福祉(生活)支援コーディネーターとの連携について

▶今後特に力を入れてほしいと考える役割や、期待することはなんですか。



5. 自由記入

サロンやのぞみの会、その他地域活動の案内を、ケアマネジャー宛にも発信していただくと、「どんなことをやってるのかちょっと見に行ってみようかな」とハードルが下がり、利用者様への紹介などにも繋がっていくかと思います。いつもありがとうございます。

地域の顔的存在の地域福祉コーディネーターの皆様、お疲れさまです。地域の方と繋がりをもって頂いていることで、情報共有して頂き地域での様子を知る機会となり大変ありがたいです。

書類のことや介護保険制度以外のこと、勉強不足だとは思いますが、把握しきれません。でも他に頼ることもできないので、結局あちこち連絡をとりながら対応するしかない状況です。

インフォーマルサービス、地域の支えあい活動内容が地区によって違うため、最新の現状を自分でも把握し切れていないので、なかなか紹介できない。「今困っていること」に対して、介護保険、有償サービスのようなスピード感をもってやってもらえるか(マッチング、紹介など)の心配もある。

これからも頼りにさせていただきます。相談しやすい関係作りをお願い致します。

【評価・分析】※作成中

生活支援サービス 14 項目の個別評価

① ゴミ出し支援

- データ: 「不足していない」が 6 名と最多ですが、「やや不足・不足」の合計も 6 名です。頻度は 11 名が「0～1 回」と低めです。
- 評価: 既存のサービスや近隣の助け合いで大部分はカバーできていますが、個別の住環境や身体状況によっては支援が行き届かなくなりつつあるケースが存在します。

② 買い物代行支援

- データ: 「不足していない」が 6 名、「0～1 回」が 9 名と大半を占めます。
- 評価: 概ね充足していると言えます。ただし、「2～5 回」直面するスタッフも 4 名おり、特定の利用者に課題が集中している可能性があります。

③ 見守り・声掛け支援

- データ: 困り度は「不足していない(3 名)」から「非常に不足(1 名)」まで広く分散しています。特筆すべきは頻度で、「2～5 回」が 6 名、「6 回以上」が 2 名と高い数値を示しています。
- 評価: 現場が日常的に直面している課題です。独居高齢者の増加などを背景に、潜在的なニーズや支援の個人差が非常に大きい領域であると評価できます。

④ 移動支援（足の確保・同行支援除く）

- データ: 「少し不足～非常に不足」の合計が 12 名(うち「非常に不足」3 名)に上ります。頻度も「2～5 回」が 5 名、「6 回以上」が 3 名と高頻度です。
- 評価: 最も深刻かつ最優先で対策を検討すべき課題です。生活のあらゆる場面に直結する移動手段の欠如が、利用者の生活の質を大きく下げている状況が明確に表れています。

⑤ 病院の付き添い支援

- データ: 「不足していない」が 5 名いる一方で、「不足・非常に不足」も計 4 名います。頻度は「0～1 回」が 8 名です。
- 評価: 家族の有無などの環境要因に大きく左右される項目です。支援者がいないケースにおいては致命的な障壁となるため、代替手段の確保が求められます。

⑥ 買い物の付き添い支援

- データ: 困り度は「少し不足(5 名)」が最多で、「不足」も 3 名います。頻度は「0～1 回」が 10 名です。
- 評価: 代行(②)よりも付き添いに対して不足感を持たれています。「自分で商品を見て選びたい」という利用者の意欲と、それを支えるリソースの間にギャップが生じています。

⑦ 配食サービス

- データ: 「不足していない」が 6 名、「不足・非常に不足」は 0 名です。頻度も 12 名が「0～1 回」です。
- 評価: 民間事業者や既存の福祉サービスが十分に機能しており、現状での緊急対応は不要と考えられます。

⑧ 庭の整備（草刈り、庭木の手入れなど）

- データ: 「不足している」が 5 名と目立ちます。頻度は「2～5 回」が 5 名です。
- 評価: 介護保険外のサービスとなるため、明確な受け皿が不足しています。生命に直結しないものの、地域との関係性や住環境の維持において無視できない課題です。

⑨ 家の中の支援（そうじ）

- データ: 「少し不足」が 5 名、「やや不足」が 3 名と、軽度の不足感が広く存在します。
- 評価: ヘルパーによる生活援助だけではカバーしきれない、細かな清掃ニーズ(換気扇、窓拭き、大掃除など)への対応に苦慮している様子が窺えます。

⑩ 家の中の支援（電球交換、灯油入れなど）

- データ: 「不足していない」が 6 名ですが、「不足」も 3 名います。頻度は「0～1 回」が 9 名です。
- 評価: 比較的対応できているものの、電球交換や灯油入れといった危険を伴う日常作業において、身寄りのない高齢者へのスポット的な支援枠組みが求められています。

⑪ 居場所（ふれあいサロン等社会的孤立防止）

- データ: 「不足していない」が 6 名、「0～1 回」が 10 名です。一方で「不足」も 3 名います。
- 評価: 地域のサロン等は存在して機能しているものの、そこへの「移動手段(④)」がない、あるいは参加のハードルを感じている層に対しては機能不全を起こしていると推測されます。

⑫ 入退院の手続き

- データ: 頻度は「0～1 回」が 12 名と低いですが、「非常に不足」が 3 名います。
- 評価: 発生頻度こそ低いものの、身元保証や複雑な手続きを代行する機能がないため、いざ発生した際に現場が抱える負担や行き詰まり感が極めて強い領域です。

⑬ 行政等から届く書類等の確認・整理

- データ: 「不足している」が 6 名、「非常に不足」が 1 名です。頻度も「2～5 回」が 7 名と高くなっています。
- 評価: 日常業務における最大のボトルネックの一つです。公的手続きの複雑化やデジタル化が進む中、利用者の理解をサポートし処理を手伝う機能が決定的に不足しており、早急な支援体制の構築が必要です。

⑭ 死後事務

- データ: 「不足していない」が 8 名、頻度は全員が「0～1 回」です。ただし「非常に不足」が 2 名います。
- 評価: 基本的には親族等で対応が完結している事案が大半ですが、独居で身寄りのないケースにおいては深刻な事態(非常に不足)に陥るという、両極端な結果を示しています。